

(別紙様式3)

### 令和2年度学校評価(年間評価)

学校名 大分県立中津支援学校

前年度評価結果の概要	<p>○学習指導要領改訂にともなう生活単元学習にかかわる指導内容の見直しを行うことができた。しかし、本校の「基本的な考え方」の見直しに着手できていないため、系統性のある教育課程には至っていない。</p> <p>○各学部間における保護者の進路に関する意識、知識の差が大きい。各学部の課題を分析し、進路支援に関するPDCAをまわす取り組みが必要である。また、進路につながる小中高の系統性を持たせた指導の展開を検討する必要がある。</p> <p>○地震津波に関する取組は、6年間重点的取組に取り入れたことで成果をあげている。これらの成果を見直しできていない他の災害や学校安全に関する取組に応用していく必要がある。</p> <p>○各学部ごとに地域とのつながりを深めてきたことは成果としてとらえる。ただし、学部間の系統性がないことは課題である。また、HPによる学校からの発信は少ない。「地域とともにある学校」を目指すためには、両方の情報を共有することが必要である。</p> <p>○働き方では、好事例の共有はできたが、長時間労働となっている課題への分析はできていない。タイムカードより学年、学部、分掌等の集計から傾向や特徴を分析し、教務改善を行う等の短期による働き方PDCAをまわす取り組みが必要である。</p>
------------	--

学校教育目標	中期目標	重点目標
児童生徒一人一人の能力や特性に応じた教育を行い、その可能性をのばし、自立と社会参加を目指す人間を育成する。	<p>○個の実態や特性を踏まえ、教育的ニーズに応じた質の高い教育活動の展開</p> <p>○生活保障・進路保障に向けた進路支援の充実</p> <p>○安全・安心な学校づくりのための教育環境の整備・改善・充実</p>	<p>○カリキュラム・マネジメントの推進</p> <p>○安全・安心な学校づくりの充実</p> <p>○児童生徒に向き合うための業務改善の推進</p>

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL	自己評価結果		次年度の改善策	学校関係者評価
					評価	分析・考察		
カリキュラム・マネジメントの推進	各教科等合わせた指導の「基本的な考え方」の改訂	基本的な考え方の見直し	<p>○PL,SLで項目を作成。各指導の形態ごとの縦割りグループの編成(5月)</p> <p>○月1回以上グループ研修を実施。第1次案提出(6~8月末)</p> <p>○GLによる第1次案検討作業(9月)</p> <p>○各グループで案修正(10~12月)最終案提出(12月末)</p> <p>○全体研修(1月)</p>	PL: 教務主任 SL: 研修主任 主幹教諭	3	<p>○PL・SLで学部目標と各教科等を合わせた指導の目標のつながりを整理し、学部間の系統性を整備。学校運営会議でも協議を実施。</p> <p>○1月の全体研修で全職員に周知。</p> <p>○感染症対策等で他業務が増加したことにより、指導内容等の整理について十分な検討ができなかったことが課題。</p>	<p>○学校目標・学部目標達成に向け系統性を持った授業を展開できるように、全職員が基本的な考え方を見直せるような研修方法を整える。</p> <p>○PLは、見直す視点を明確化し、具体的な取り組み方法とスケジュールを提示。</p>	・引き続き、子どもの特性や興味関心に合わせた指導をしてほしい。
	各教科等を合わせた指導における「なりたいたい自分に必要な力(案)」の設定	個々の進路に対応するキャリア教育	<p>○各担任で「本人・保護者の願いシート」における「なりたいたい姿・なりたいたい自分」の確認(4月中旬)</p> <p>○研究主題「なりたいたい自分に必要な力(案)」を全教職員で協議・共有(4月中旬)</p> <p>○各学部で事後研究会を含む互見授業(高等部は特定授業)を実施(～12月)</p> <p>○事後研究会で「なりたいたい自分に必要な力(案)」の検証実施</p> <p>○研究主題「なりたいたい自分に必要な力(案)」に関する校内研修会(指導力向上事業に係る校内研修会)を2回実施(8月)</p>	PL: 研修主任 SL: 進路支援主任 各学部研修部代表 主幹教諭	3	<p>○校内研修会(9月、11月の計2回)、特定授業(11月)、互見授業及び授業研究会(中9月、高・全体11月、小12月)を実施。</p> <p>○本校の育てたい力を基にした「なりたいたい自分に必要な力(キャリア教育の観点)」が、どの「教科等を合わせた指導」と関連があるかをアンケートでグラフ化した。また「なりたいたい自分に必要な力を育む授業実践」をテーマに、「一人一実践」(2学期)に取り組んだ。</p> <p>○研究結果を基本的な考え方に反映。生単では「夢や希望」の項目が低いことが課題。</p>	<p>○「なりたいたい自分に必要な力」について、今年度の研修成果を活かし「本人・保護者の願い」と各教科等の指導計画、授業実践等の充実につなげる。</p> <p>○「生活単元学習」とキャリア教育との関連性について、再度キャリア教育の観点について丁寧に説明し、それぞれの観点的意味について共通理解を図ったうえで、実践を深めていくように改善する。</p>	・「本人・保護者の願い」について、これまで以上に、担任と保護者が十分に協議ができるシステムであるとうい。
安全・安心な学校づくりの充実	ヒヤリハット報告を180件以上提出	ヒヤリハット報告による安全な環境づくりの徹底	<p>○安全点検実施の教職員が、学期初めの奇数月に、1人1件のヒヤリハット報告(想像でも可)を提出(5、9、1月)</p> <p>○e-オフィスの会議スペースを活用し、集約、改善策を共有</p>	PL: 保健主任 SL: 生徒指導主任 主幹教諭	4	<p>○ヒヤリハット報告は250件(2月末現在)を達成。提出者に校長が助言。全職員(75名)が11件以上、うち56名が3件以上提出。</p> <p>○安全点検と関連づけ、事務室と連携し環境面を整備。</p> <p>○学部・学年でヒヤリハット報告をもとに改善に向けた協議を行った。同じようなヒヤリハット報告があったことは課題。</p>	<p>○今年度提出されたヒヤリハットを集約・分析し、改善策等の見直しを共有し安全・安心な学校づくりに努める。</p> <p>○時期によって多いヒヤリハットを項目別にまとめ、その時期に注意喚起を促す。</p> <p>○次年度は、児童生徒によるヒヤリハットに気づく教育実践を導入し、安全教育の充実を図る。</p>	・よい取り組みであるので、今後も継続して取り組んでほしい。
	地域の方との交流 年10回	地域の教育資源を活用した学習活動の充実と地域との連携	<p>○地域との打合せ[場所、時期、活動人数等](5月)</p> <p>○北部校区の方との学校周辺の清掃活動を実施(10月)</p> <p>○スクールサポーター等を活用した授業を、各学部年3回以上実施</p>	PL: 人権教育主任 SL: 特別活動主任	4	<p>○地域の方と11回の打合わせで活動方法を協議。10月に9名の地域の方と全校で清掃活動を実施。</p> <p>○スクールサポーター等を活用した授業を小3回、中7回、高3回の計13回実施。各学部とも感染症による新しい生活様式に配慮し、体験学習に取り組んだ。</p>	<p>○清掃活動は、他の行事等を考慮し期日を決定する。</p> <p>○地域の方を招いた授業では、学部の実態に合わせると共に、文部科学省の衛生マニュアルや本校フェーズ対応表などに従いより安全な活動内容を検討する。</p>	・地域との交流は地域の方も元気をもらえる。今後もより一層の充実を図ってほしい。
児童生徒に向き合うための業務改善の推進	一人一目標「3」以上が9割 ※5段階評価における「3」	働き方を考える一人一目標の設定と実行	<p>○管理職による目標管理面談を通じた働きかけ(年3回)</p> <p>○目標や取組状況、取り組み後の成果と課題を衛生委員会で確認(年3回)</p> <p>○タイムレコーダによる時間外勤務の個票作成(毎月)</p>	PL: 衛生管理者 SL: 教頭	3	<p>○一人一目標の達成率は、期末評価は84.8%。</p> <p>○毎月の安全衛生委員会で個票を活用した時間外勤務や休職取得の状況と改善策を検討。</p> <p>○時間外勤務は、昨年比較で学校全体では減少(県平均より年間でマイナス43時間)。</p>	<p>○学校全体で業務の見直し、精選をさらに進め、仕事の量的負担の軽減、時間外勤務の縮減を図る。</p>	・引き続き業務改善に取り組んでほしい。
	業務改善の立案・実行5件	前年度の分掌反省及び好事例に基づく業務改善案の実行	<p>○PL・SLによる業務改善案の整理(5月)</p> <p>○運営委員会での報告(6月)</p> <p>○実践(4~12月)</p> <p>○検証(10月、1月)</p> <p>○次年度への提起(2月)</p>	PL: 教頭 SL: 副学部主事	3	<p>○22件の業務改善の立案・実行は目標達成100%。分掌主任等が明確な立案を示した成果。</p> <p>○9月、1月に「意識調査」を実施。詳細なスケジュール設定等で働き方に見直しを持たせる取り組みは、「業務改善につながった」と半数以上の職員が回答。時間の使い方を明確にする取り組みは成果。</p> <p>○校長提案の業務改善提案シートの実行は21件。12月アンケートでは「働きやすくなったと感じる」が97%。</p>	<p>○時間外勤務の個人差を解消する取り組みが必要。</p> <p>○働き方改革をより推進するため「風通しのよい職場づくりプログラム」を次年度導入予定。</p>	・引き続き、業務改善に取り組んでほしい。電話回線が少なく、電話がつながりにくいことは解消してほしい。

総合評価 次年度への展望等	<p>○今年度作成した各教科等合わせた指導の「基本的な考え方」の改訂をもとに、次年度はPDCAサイクルを通じた改善を行い、授業力の向上につなげる。</p> <p>○「なりたいたい自分に必要な力」について、キャリア教育の観点との関連を確かめることができた。「本人・保護者の願い」について保護者と十分に協議し、目標設定を行うとともに、個別の指導計画、授業実践等の充実を図る。</p> <p>○ヒヤリハット報告の推進は、安全・安心な学校づくりの充実に大きく寄与。次年度は、児童生徒によるヒヤリハットに気づく教育実践を導入し、安全教育の充実を図る。</p> <p>○地域との交流について、感染対策を講じながら計画通りの実施ができた。次年度も引き続き、地域の教育資源を活用した学習活動を計画し、地域との交流の充実を図る。</p> <p>○さまざまな業務改善の実行により、学校全体の時間外勤務の減少につながった。ただし、分掌業務量の偏りにより、時間外勤務の個人差が出ている。分掌編制による平準化を狙う。</p>
------------------	---